

果樹の害虫ナミハダニを食べる天敵カブリダニ類

果樹試験場

ナミハダニは、農薬に対する抵抗性を獲得しやすく、防除に最も苦慮している害虫です。このナミハダニの防除に、果樹園やその周辺に生息している土着の天敵カブリダニを活用することが全国で検討されています。

1 カブリダニ類とは

- ・体色は乳白色～黄褐色、体長は約 0.4mmで、捕食性ダニの仲間です。
- ・国内には 90種以上の種類が知られています。
- ・動きは俊敏で、ハダニ類、アザミウマ類やコナジラミ類などの微小害虫を捕食するものが多く含まれます。
- ・捕食する害虫の範囲が広い種（ジェネラリスト）と、狭い種（スペシャリスト）があります。

2 ナミハダニを捕食する2種のカブリダニ

県内果樹園では、ナミハダニやそれ以外にもサビダニ等を捕食するジェネラリストのミヤコカブリダニとナミハダニのみを捕食するスペシャリストのケナガカブリダニとの2種がよく発生します。

ジェネラリストのミヤコカブリダニは、色々な餌を食べながら、ナミハダニの発生を待ち伏せています。そのため、発生期間が長く、ナミハダニの発生に合わせて捕食が始まることから、高い防除効果が期待できる種です。もう一方のケナガカブリダニは、ナミハダニだけを餌とするスペシャリストですので、餌になるナミハダニが増え多発した後に追従して増えるため、どうしても被害が発生してしまうことがあります。しかし、一旦ケナガカブリダニが発生すると、ナミハダニを極短期間で食べつくす、高い捕食力を有する種です。

3 土着カブリダニ類の利用に向けて

土着カブリダニの活用には、カブリダニ類とナミハダニの発生量を確認できるようになることが肝心です。非常に小さなダニ類を確認するには、枝や葉を叩いて葉に寄生しているダニ類を黒色の板の上に落として観察するビーティング法がよいでしょう。カブリダニの発生は、園地の環境や年次により異なります。園内の発生状況が観察できるようになったら、具体的な活用方法について指導者等のアドバイスをしっかり受けて取り組んでください。



ミヤコカブリダニ

(ルーペで見ると背面に毛がほとんど見えない)



ケナガカブリダニ

(ルーペで見ると背面に長い毛が見える)

担当者	笹脇 彰徳	電話番号	026-246-2415
-----	-------	------	--------------